

令和5年度
平戸市総合戦略推進委員会
会議録

と き：令和5年11月20日（月）13：30～16：20
と ころ：平戸市役所 大会議室ABC

開催日時	令和5年11月20日(月) 13:30~16:20
開催場所	平戸市役所 大会議室ABC
出席委員 (50音順、敬称略)	赤木明子、井上翔一郎、大戸武、辻秀敏、福田章、松尾信博、松田隆也、松山恵美、村上則夫 (9名)
欠席委員 (50音順、敬称略)	大浦広己、甲斐毅彦、田口増巳、松尾俊行、松山芳弘、山中兵恵 (6名)
事務局 (財務部企画財政課)	梶田部長、藤田理事、江川課長、永田参事兼班長、作江主任主事
事業担当課	商工物産課、農業振興課、水産課、観光課、 こども未来課、学校教育課、教育総務課、総務課、文化交流課
次第	
1 開会	(事務局)
2 副市長 あいさつ	松田副市長
3 会長 あいさつ	村上会長
4 議題 (1) 平戸市の人口 動態等について 委員 企画財政課	(事務局説明及び江迎公共職業安定所の松尾信博委員より資料の補足説明) ●質疑・意見等 以前、合計特殊出生率が自治体別だと平戸市が長崎県1位ということだったが、産婦人科が少ないなど課題がある中での数値の高さについて、何か行政で把握していることはあるか。 合計特殊出生率は以前から高い状況にあった。保育料の無償化などの、子を育てやすい環境も大きな要因ではないか。また、お母さんたちの相談体制の充実・整備も数値に表れているのではないかと思う。

<p>委員</p>	<p>委員同士であるが、大島村の状況についてお聞きしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>大島村の状況について。元々大島では高齢者が多く、高齢化率も 50% 前後を推移しています。出生数は年間 5・6 人程度がここ 10 年間は続いているため、高齢者が亡くなったり、島外の施設に入所されることにより自然減しているところかと思われる。転出入では、転出ももちろんいるが、20・30 代の方が家族そろって島に帰ってくるということも最近あっている状況。</p>
<p>(2) 平戸市総合戦略に係る令和 4 年度事業の実施状況等について</p> <p>委員</p>	<p>【基本目標 1 雇用の促進～しごとをふやすプロジェクト～】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>4 ページの企業見学バスツアーを中学校・小学校を対象に企業依頼することだが、これは保護者も一緒に参加しているのか。小中学生に関しては、保護者も同行し一緒に体験して子供へ声掛けすることによって、将来平戸へ帰ってくるきっかけになるのではないかと。</p>
<p>商工物産課</p>	<p>企業訪問については授業の一環で行っているため、平日の実施となり保護者は参加できていない状況。中学生以下を対象にしたツアーは今年度から実施を始めたばかりで、まずは企業と児童生徒をつなぐ第 1 段階という状況。</p>
<p>委員</p>	<p>今後、夏休み期間中などに保護者と一緒に実施することは考えていないということか。</p>
<p>商工物産課</p>	<p>前段で土日の実施も検討したが、これは学校側の働き方改革を含めて時間外の取扱いが難しく、その場合先生方は来ないということになる。合同企業面談会を学校の休みの日に実施すると、学校はあくまで周知をするだけで、生徒と保護者の判断で参加してくださいということになり、責任問題が微妙なところがあるためそこまでできていな</p>

<p>委員</p>	<p>い。</p> <p>資料1の12ページ人口動態に戻るが、年齢別転入・転出について。地場企業就職促進事業などは15歳～19歳までの人口が減っていることへの施策だと思うが、一方20歳越えたところで転入がものすごく増えるため、この数字はどういうものなのか分析されているか。また、事業の中身に関して「事業実施による成果」のところで、参加者のうち2名が市内企業への就職につながったとのことであるが、このツアーを受け入れている企業はどのような評価をしているのか。</p>
<p>商工物産課</p>	<p>高校の場合は原則、1生徒に対して1企業が「面談から就職まで」となるため、学校側が1つの会社を選ぶと他社は入りにくい状況となる。県教育委員会として学校には、高校生へ複数の企業をできるだけ紹介するようにと話しているようであるが、学校側もこれまでの流れをなかなか変えることが出来ずにいるため、色々な生徒へ情報提供できる合同企業面談会やバスツアーは好評をいただいている。あと、保護者へどう伝えるかという点が学校行事の中では難しいため、生徒と企業が直接結びつくことにより家庭での話題につながっていくものと考えている。</p>
<p>企画財政課</p>	<p>若い人の転入の要因について、はっきりしたことはわかっていない。これまでの流れでは、高校卒業後に就職や大学進学のため一旦転出するが、一部は帰ってきているという感じはある。その理由まではつかめていない。</p>
<p>委員</p>	<p>コロナ禍の影響かなと思っていたが、過去も同じような傾向があるため一概には言えないのかなと思う。</p> <p>もう1点質問で、最近の九州の経済状況を見ていると、県内では諫早、佐賀の伊万里の方でも半導体絡みで企業進出や工場新設が起きているようであり、平戸に1社でも来てくれれば定住人口も増えるのではないかと。平戸も誘致活動したかどうかかわからないが、県内で選ばれ</p>

<p>商工物産課</p>	<p>なかった理由など市で分析していることはあるか。</p> <p>市内工業団地は4つあり、そのうち3つは平戸島の方にある。全体的に見るといざというときに遮断されてしまう平戸大橋がネックとなってしまう、企業が来ない。すでに企業誘致実績のある田平地区が、今後も工業団地のメインになってくるため、新たな整備も田平地区で予定している。私たちも半導体や自動車関連会社を企業誘致活動に回っていると、熊本・福岡・鹿児島など九州の縦線が流通の拠点となっていることから長崎県は外れてしまうものの、どこも人手が足りなくなってきたことから、いよいよ長崎県に目を向けて人材を確保していきたいという話を聞く。西九州道がこれから整備されれば、福岡・熊本とは別の流通形態が出来上がるため、平戸をはじめ県北・佐世保に興味があると聞いている。交通網の整備や事業期間によって、企業への情報提供の仕方がこれまでと変わってくるものだと考えている。</p>
<p>企画財政課</p>	<p>先ほどの20歳代転入の背景について、県が転入者に対して県下全域アンケートを実施しており、県内の統計的なデータとして、転入後就職する人のうち男性は製造業が20%超え、女性は医療系が多くなっており、その理由として男性は「県内に希望する仕事は新たにできたこと」、女性も同様だが「友人知人がいた」ということも理由の1つである。</p>
<p>委員</p>	<p>企業誘致について、私も新聞記事で何回か紹介しているが、進出した企業のその後がよくわからない。企業がきちんと定着し、雇用がどのように生まれているのか。</p>
<p>商工物産課</p>	<p>A社は、創業後10名以上が就職し、7割以上が市内出身者。今後事業拡張する計画もあるため、雇用促進も図られる見込み。B社は、求人を出しているがなかなか雇用につながらないということであり、今後高校にも情報提供しながら関係機関と連携していくとのこと。誘致企業については事業実績も伸びてきているが、思うように雇用できない</p>

	ため外国人の実習生でカバーしつつ、安定定着している状況。
(2) 平戸市総合戦略に係る令和4年度事業の実施状況等について	<p>【基本目標2 産業の振興～しごとをのばすプロジェクト～】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p>
委員	<p>全般的な質問になるが、農業・漁業・観光業がどれくらいの産業シェアを握っているのか聞きたい。資料を見ると農業・漁業について行政のサポートが非常に手厚い印象を受ける。最近牛の値段がものすごく下がっているというが、平戸にどれくらい影響を与えるのかわからないままニュースを見ている。</p>
商工物産課	<p>考え方として、外貨を獲得するまでの産業内訳としては「農業・漁業」により地元でどれだけ生産され、それを「物産関係」で市外に向けて発信し「観光」で外貨を獲得するというサイクルが地域産業の形。産業人口全体が減ってきている中で、外貨をどう獲得していくかが主たる課題だととらえ、首都圏のアンテナショップや福岡・大阪での物産展に力を入れている。</p>
企画財政課	<p>生産額として、少し古い2017年の数字ですが水産の漁獲高が約44億円、農業が56億円、観光が100億。観光は裾野が広く、全体的にカバーした形になっている。</p>
委員	<p>16ページの農業相談件数が令和4年度47件になっているが、実際平戸に就農された方はどのくらいいるのか。</p>
農業振興課	<p>ここ数年の新規就農者数の実績は、令和元年度から6人、2年度が15人、3年度が6人、4年度が10人。総合計画の中では新規就農者数を6名と目標を立てて実施している。</p>

委員	就農された方は、田んぼやアスパラ・イチゴなどこういった作物を作っているのか。
農業振興課	平戸式もうかる農業実現支援事業というのが農業振興課の1番大きな事業であり、その事業目的として「担い手の確保・育成」「園芸振興」「肉用牛振興」この3つを柱としている。令和4年度の実績では、アスパラガスが6人、イチゴが2人、肉用牛が1人、玉ねぎが1人就農している。
委員	観光について、世界文化遺産の登録から5年たったわけだが登録から1年半でコロナ禍になって、その影響も大きいと思うが総括して5年間の影響を聞きたい。
観光課	コロナ禍の影響により、団体客は少なくなっている状況。『かたりな』には個人客も含めて観光客は来ており、今回観光協会と一緒にガストロノミーというイベントも開催した。例年かたりなのライトアップも行っているため、中江ノ島も含めてこういった観光客誘致をするか文化交流課と一緒に今後進めていきたいと考えている。
(2) 平戸市総合戦略に係る令和4年度事業の実施状況等について	<p>【基本目標3 子育て支援～ひとをそだてるプロジェクト～】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p>
委員	資料41 ページ「事業の改善」について、現在度島ではトコトコというグループが島に入ってお母さん達の交流促進や相談事業を行っているようだが、大島にはそれが無く、今後検討すると書いてあり嬉しいなと思っている。現在、医師や育児に関する専門家が島を訪問する事業が年2回ほど実施されているが、田舎の若いお母さんは出身者という

<p>こども未来課</p>	<p>よりも転入者が多く、子育てにも慣れないといけなくて毎日が不安だ と思う。相談事業についてはできるだけ頻回に島の方でも実施し、平 常時を不安なく暮らすことで、重大なことが起きずに済むのではない か。</p> <p>大島地区については、地域子育て支援拠点事業は展開できていない状 況。大島の場合、子育てに専任している若いお母さんを除き、ほとん どが就労している。子育てのタイミングに皆さんがコミュニケーション をとりながら共に育ちあっていって欲しいという思いで、この事業 を行っているところだが、実際大島地区のお母さん方からほとんど声 が挙がっていない状況。度島地区については、お母さん方からそうい う場を作りたいという声があり、また、自分たちの組織として立ち上 げていこうという自主的な動きも見られたため、先に実現したも の。</p>
<p>会 長</p>	<p>まずは地元のニーズを拾い上げて、具体的に伝えないと行政も動けな いのかもしれない。</p>
<p>委 員</p>	<p>自分の子供がトコトコのヘビーユーザーであり、質問や意見というよ りも感想として。行政側としては子育ての悩み相談や不安解消を名目 として事業に取り組んでいると思うが、直接的に職員へ相談できる環 境でなくとも、お母さんたちが多く集まることにより女性同士会話が できて色々と解消になっている実感がある。そのため、何か具体的な 悩みがあるからこの場に行くのではなくて、時間つぶしや子供が遊べ る環境があるから通うことにより、ヘビーユーザーと関係性が出来た り先輩・後輩お母さんと相談したりできるようである。一方で、利用 しているお母さんたちは公費が投入されていると知らないのではない かという印象。大変良い取組みだからこそ、さらに周知することで多 くのお母さんが集まり、コミュニティの価値も高まると思う。</p>
<p>会 長</p>	<p>オンラインで大島地区とつないで、お母さんたちの声をメールで問い</p>

	合わせ、回答するような取組みは現在していないのか。
こども未来課	オンライン相談の取組みもしているが、周知が行き届いておらず知らない人が多いと思われる。今後周知に努めたい。
委員	保育料無償化の効果というか、一度平戸を出たがそれを理由に引っ越してきたなど、事例があれば教えてください。
こども未来課	転入につながったか完全な把握まではできていないが、市外から平戸市に通勤していて、保育料無償化の話を聞いたから引っ越そうか迷っているという話は何件か耳にしている。
委員	肌感として、赤ちゃんを預けると保育料が6・7万円かかるから働いても意味が無いと思い働いていなかったお母さんが、保育料無償化をきっかけに働き出すというようなケースも増えている感じがした。
委員	資料 37 ページ、全国学力・学習状況調査結果や英検 3 級相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合がともに低下しているようだが、何か原因はあるか。
学校教育課	まず学力調査については、小学 6 年生と中学 3 年生に学年が決まっているため、対象者が違うというのが大きな一因。我々も、原因を明らかにしていくというのが難しいと感じている。2 件目の英検については、コロナ禍にちょうど年 2 回の申し込みの時期が重なったため受験者そのものが減り、これが大きな原因だったと考えている。
会長	英検を受けるときは、会場は佐世保まで出ないといけないのか。受験費用は個人負担か。
学校教育課	各学校単位で 10 名を超えるような人数であれば、準会場として各学校で英語担当教員がついて受験できる許可をもらっている。一旦受検者

<p>委員</p>	<p>が負担する形になるが、市から全額補助をする。(各階層年1回限り)</p> <p>平戸で塾を営んで5年になるが、やはりちょっと学力が下がってきているかもしれない。これも塾生が5年前と違うため一概には言えないが、年々高校入試の障壁も下がっている。目標があって、競争があって、不合格を突き付けられるかもしれないとなると尻に火が付くものだが、出願すれば入れてしまうような状況では難しい。</p> <p>英語に関しては、取得率云々よりも市が受験料を出してくれることで生徒の意欲がすごく上がっている。中学校が2021年から教科書が変わり、英語がかなり難しくなってしまったため定着が厳しいなど感じている。中学1年生から壁に突き当たる子が増えているが、平戸に限らず全国的なことであり、令和4年度の取得率が下がった影響はあるのではないか。</p>
<p>学校教育課</p>	<p>平戸島内の高校の希望者そのものが半分に満たず、受ければ受かるという状況の中で子供たちの意識が低下している。今後も高校のクラスが減っていく見込みかと思われる。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど子育て相談などオンラインもやっているが、なかなか数字が上がらないとのこと。ハローワークも実はオンラインで職業相談できる仕組みを導入したと思うように利用が伸びなかった。市のオンラインシステムと、職業相談のシステムをかみ合わせるような展開が出来たらいいのではないかと閃いたところ。</p>
<p>こども未来課</p>	<p>確か事前にLINEで申し込みを行い、その後日時の約束をして、オンラインで相談をしてもらう仕組み。マンツーマンで丁寧な対応をしてもらえる。トコトコに端末を置いてあるが市役所とはつながっておらず、業務委託のような対応となっており、相談内容の報告も求めず件数だけ把握している。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば就労相談をしたいといったニーズがあれば、連携させてもらう</p>

<p>会 長</p>	<p>ことができればと思うので、後日でも相談させてほしい。</p> <p>人が生きていく力の一部は学力であり、中学生が高校へ入ればいいというのもひとつの目標であるが、結局は社会へ出て生きていかなければいけないため、様々な競争の中で自分の持つ生きる力を発揮して人生を切り開いていく必要がある。であれば、働くためにどういう勉強・学力・資格が必要か伝えていくことが大切。そういう意味で、小・中学生を現場に連れていくことは、働く人はこんな努力をしているのだと教えられる良い環境だと思う。</p> <p>また、合計特殊出生率の目標値が 2.4 ですごく高い。全国的にもそんなに高い目標の自治体があるものかと。</p>
<p>副会長</p>	<p>合計特殊出生率の目標は確かに高すぎかなと私も思っているが、議論を重ねた数字であるので、近づけるような努力を行政もしなければならぬと思っている。先ほど学力の話が出たが、私もこれを懸念している。子供たちを対象に、この9・10年色々なボランティア活動をしているが、学力の低下や子供たちの資質を見ていて、保護者の意識も学校によって全然違うと感じている。中部地区と平戸小学校管内あるいは田平北小学校管内を比べ、色々な人の話を聞いていても学力の低下を感じる。結局、小学校の学力のまま中学に進学するため、学力がなければ中学校でも伸びない。教育の質を上げていかねばならないと、危機感をいつも感じている。</p>
<p>委 員</p>	<p>市内高校の倍率が定員割れしている話と、市内高校への進学率が 55% ほどしかないという話の関連性について市の方ではどう考えているか。</p>
<p>学校教育課</p>	<p>現在の高校進学率はほとんど 100%に近いと思われる。しかし市内高校への進学率が 50%強というのはつまり、市外へ出向いている。今の高校は県内外問わず生徒募集への努力はすさまじく、特に私立は県内の離島中学校に出向いてでも生徒集めに必死になっており、公立ではで</p>

<p>企画財政課</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>こども未来課</p>	<p>きないような教育課程を組み、部活動などの魅力もあって市外県外へ出ていく生徒も多くなっている現状。</p> <p>資料 13 ページに示しているが、市内高校への進学率については企画財政課の方でも市内高校の魅力化に取り組んでおり、目標値も掲げているところ。市外高校に進学する子供が増えてきているほか、中学生からも市外に出ている状況を把握している。そういった流出を、少しでも抑えたいと思っている。</p> <p>私も高校生の子がいるが保護者との話の中で、南部方面から猶興館への通学は乗り換えもあって難しく、どうせ通学が難しいのであれば市外の高校に行かせるということも聞く。定期の直行バスが無いなど、本来家から通いたいのが叶わないという現実もある様子。</p> <p>大島の子供は、市内に2・3人通学し、他の子は長崎や佐世保に下宿等して高校に通っている。</p> <p>へき地で働く技術職がなかなか確保できずにいたが、ようやく保育士が今年度1名確保されたが、待機児童は解消されているのか。</p> <p>大島には公立の大島村保育所があるが、待機児童はいないと把握している。</p>
<p>(2) 平戸市総合戦略に係る令和4年度事業の実施状況等について</p> <p>委員</p> <p>企画財政課</p>	<p>【基本目標4 定住・移住の促進～まちをつくるプロジェクト～】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>空き家バンク制度とあるが、今商店街も空き店舗があるようだが有効活用を市の方で何か考えているか。</p> <p>空き家バンク制度については、個人の住宅を移住者へ貸し出す制度と</p>

<p>委員</p> <p>企画財政課</p>	<p>なっており、空き店舗については同様の形態にはなっていない。しかし「アルベルゴディフーズタウン」という空き家・空き店舗を利用して宿泊施設に改装する事業もあるため、今後そういった利活用をされていくものと考えている。</p> <p>結局空き家バンクを使って移住してきても、仕事が無ければ定住することは難しいため、例えば店舗ごと借りて体験で事業を行うなど、ここで商売ができるという環境ができれば良いと思う。</p> <p>移住者についてはほとんどが事前相談に来られ、その中で仕事関係の相談内容ももちろんある。企画財政課が窓口となり、商工や農林・水産の担当窓口へ引き継ぐ流れを取っている。</p>
<p>(3) その他</p>	<p>(事務局)</p> <p>委員皆さんの任期については、令和5年度末までとなっている。令和6年4月以降新たに委員を依頼することになる。引き続きという方もおられると思うがその際はよろしくお願ひしたい。</p> <p>また、今進めている第2期総合戦略については期間が令和6年度までとなっており、第3期の策定を令和6年度中に行う必要がある。来期の委員については、複数回の会議に出席いただくことになろうかと思うのでその際はご協力をお願いする。</p>
<p>5 開会</p>	<p>(閉会あいさつ)</p> <p>【会議終了】</p>